乳児一過性高ＴＳＨ血症の長期予後

藪内　百治，野瀬　　宰，三木　和典
（大阪大学　小児科）
宮井　　潔，畑　　直成
（大阪大学　臨床診断学講座）

研　究　目　的

乳児一過性高ＴＳＨ血症は，我々が初めて提唱した病態であり，第５次の厚生省班研究調査でも全国で７７例の報告がある。しかし，新生児一過性甲状腺機能低下症や，軽症クレチン症との鑑別が容易でない上に，定義に忠実でないための混乱なども散見される。また，一方，同じく我々が述べている「先天性高ＴＳＨ血症持続型」との異同もよく理解されていない面がある。そこで，長期予後を含めて乳児一過性高ＴＳＨ血症の病態を知るために，今回我々は長期追跡調査を行なったのでその結果を報告する。

研究方法及び対象

対象は昭和58年11月までに我々の提唱する定義（小児内科 14(1)：67−74，1982）を満足したために，乳児一過性高ＴＳＨ血症と診断された19名の内，追跡調査を行い得た17名である。年齢は２歳11カ月から７歳６カ月で男10名，女7名である。方法は17例全例を呼出し，身長，体重測定，診察，津森稲毛式ＤＱ，採血によるT_3，T_4，ＴＳＨ，Free T_4の測定を行なった。

表１　Transient hyperthyrotropinemia

No.	氏　名	年　齢	T_3 (ng/dl)	T_4 (μg/dl)	TSH (μU/ml)	Free T_4 (ng/dl)
1	林　○史	7歳 3カ月	220	10.4	3.5	1.65
2	木○盛○	7歳 0カ月	169	8.9	4.1	1.73
3	野○未○	6歳 7カ月	164	10.3	8.9	
4	山○勝○	6歳10カ月	193	10.6	9.7	1.72
5	杉○充○	7歳 6カ月	159	8.9	5.8	1.55
6	久○孝○	5歳 7カ月	190	9.0	9.6	1.45
7	浜○泰○	5歳 6カ月	153	9.6	24.2	1.80
8	森○仁○	5歳 6カ月	179	9.1	8.7	1.30
9	足○康○	5歳 4カ月	182	10.9	7.3	1.45
10	前○尚○	5歳 2カ月	200	10.6	4.4	1.55
11	藤○泰○	5歳 2カ月	191	11.6	10.8	1.65
12	吉○宜○	4歳11カ月	205	12.5	4.3	1.80
13	吉○望○	3歳 0カ月	195	11.8	5.3	1.55
14	長○川真○	4歳 0カ月	177	9.3	5.6	1.95
15	立○哲○	3歳 2カ月	183	9.5	12.1	1.70
16	岡○　快	2歳11カ月	129	7.3	13.6	2.00
17	山○美○	3歳 0カ月	172	9.6	6.1	1.40
	Mean±SD	5歳 4カ月	181±21.4	10.2±1.7	8.4±4.8	1.64±0.19

研　究　結　果

身長，体重は1例のダウン症合併例を除き全て－1ＳＤ以上で，ＤＱは同じくダウン症の1例と難聴の1例を除いて全て90以上を示し，そのいずれもが身体，知能共正常な発育を示している。また，血中ホルモンは表1に示す通り，T_3，T_4，Free T_4 はいずれも正常で euthyroid であるが，ＴＳＨ値は1例の高値例（症例7）及び2例の正常上限例（症例15，16）を認めた。また，診察所見では3例（症例3，9，12）に2－3cm の soft で diffuse な Goiter を認めた。

考　　案

乳児一過性高ＴＳＨ血症とは臨床的，生化学的に euthyroid であり，ＴＳＨのみ一過性に上昇しているが，やがて3カ月－9カ月後には正常化し，以後正常を維持するものである。そして，今回の追跡調査の結果，最低2年から最長7年後の今日でもやはり全く正常機能を維持している例が17例中13例あり，乳児一過性高ＴＳＨ血症という病態はやはり存在する。一方，この病態は，一旦正常化すればその後は正常児として，ともすると放置されがちであるが，しかし今回の調査でも判明したように，正常化してから1例は再びＴＳＨの上昇が認められ，また，3例に Goiter が出現してきていることから，今後とも定期的な follow up が必要であることが判明した。この症例7は T_4 9.6，Free T_4 も 1.80 とまったく正常範囲内にあり，精神・身体発育も良好なことから，現時点では無治療のまま経過観察中であるが，今後甲状腺ホルモンの需要が増大すれば，ＴＳＨがさらに上昇し，T_4 も低下してくる軽度のクレチン症か，または持続型高ＴＳＨ血症かは不明である。一方，Goiter を認めた3例は，いずれも euthyroid であり，甲状腺抗体も認められなかったことから，現時点ではいかなる病態かは不明であるが，simple Goiter の初期かもしれない。いずれにしても，今後長期にわたって精密に follow する予定である。

結　　語

17例の乳児一過性高ＴＳＨ血症の追跡調査を行ない，この範疇から逸脱した例が4例あった。今後，詳細な追跡を行なう予定である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

乳児一過性高 TSH 血症は,我々が初めて提唱した病態であり,第 5 次の厚生省班研究調査でも全国で 77 例の報告がある。しかし,新生児一過性甲状腺機能低下症や,軽症クレチン症との鑑別が容易でない上に,定義に忠実でないための混乱なども散見される。また,一方,同じく我々が述べている「先天性高 TSH 血症持続型」との異同もよく理解されていない面がある。そこで,長期予後を含めて乳児一過性高 TSH 血症の病態を知るために,今回我々は長期追跡調査を行なったのでその結果を報告する。